

## 文化・芸術

### 「灼熱の夢」

1970年、紙本彩色  
123・0cm×76・8cm

田淵俊夫（1941年〜）

今回紹介するのは、題名からしてこの季節にふさわしい作品です。

作者の田淵俊夫は、東京に生まれ、東京芸術大学で日本画を学び、院展に出品を続け、1995年からは同大学の教授として、また院展の同人として創作と指導に当たってきました。師である平山郁夫の堅実な写実表現を受け継ぎ、そこに温和ですが、現代的なロマンチズムを加味した作品を描き続けています。

この作品でも、線描で描きこまれた画中に緑色の顔料である緑青（ろくしょう）だけを加えて自然の一角を描いています。繊細な緑青の色彩が浮かびあがり、現実なのか、幻想なのか、真夏の白昼夢のような情景が生れています。

猛暑の日が続いて「梅雨明け」と思ったら、また雨の日が多くなって、「戻り梅雨」という言葉も耳にします。夏本番はこれからでしょうが、どうも天候が不安定ですので、どうぞ体調に気を付けてください。

（田中）

《名画の扉》

大川美術館  
日本画コレクションから

